

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070801172		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホームあおば		
所在地	福岡市東区青葉7-13-41 〒813-0025 (電話) 092-691-7921		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年7月30日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(平成19年7月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年2月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人 常勤	7人 非常勤	1人 常勤換算 5.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての～ 1階部分		
------	---------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000～30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(150,000円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( )円	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	月2,000円
	または1日あたり		1,200円程度	

### (4) 利用者の概要(7月12日現在)

登録人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2			2名
要介護3	2名	要介護4			2名
要介護5	名				
要支援1	名	要支援2			名
年齢	平均 88.25歳	最低	75歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 原土井病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体となる系列病院の看護師寮から相撲部屋を経て改装し、高齢者住宅との併設で開設しているホームである。地域密着型サービスに移行し、「家庭的な介護と地域交流のもとに一人ひとりのあたたかい介護」の理念を掲げ、スタッフが常に見守りながら、入居者の思いに寄り添いながら思いを共有し、対応も家庭的で優しく、ホーム全体に落ち着いた家庭的な雰囲気が漂っている。

また、近隣や関連の高齢者施設などと入居者を交えての合同交流に積極的に取り組んだり、認知症に関する冊子を地域の役職者などに配布するなど地域との連携や理解の推進に力を入れ、また職員のグループホーム協議会の研修会や交流への参加や系列病院の年間研修への派遣など、質の向上に取り組んでいるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価を受け、家族及び運営推進会議時に報告を行い、職員へはミーティング時に内容を周知して改善への協議を行うなど、質の向上への取組みなどの成果がみられる。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 評価実施にあたり、ミーティング時に今の状況を改善していくなどの全職員で協議を行うなどの取組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 民生委員、地域包括支援センター職員、入居者、家族の出席のもと、運営推進会議を実施している。運営推進会議において地域との関係づくりについてホームから提案を行って話し合わせ、散歩や買い物の途中等に地域の方々や小中学生から積極的に挨拶をしていただくなどの成果がみられる。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族の訪問時の声かけやケア記録、領収書ノートを見ていただきながらの状況報告の説明と家族の意見の聴取に努め、「ホームたより」の発行を通じて暮らしぶりを伝え、ミーティングの際に協議するなどの取組みがある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 地域活動や行事、日常の買い物や散歩、ホームでの中学生体験活動、ホーム行事への地域住民の参加など、地域との交流への取組みがある。今後も継続して地域の方々との交流を通じて認知症への正しい理解を促すとともに気軽にホームへ立ち寄りいただけるように取り組んでほしい。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	以前より理念はあるものの、全職員で協議を行 い、地域密着型サービスの視点を加えた理念を再 度作成している。事業所と地域の関係づくりを重 視した内容である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念が掲示されており、自然と目 に入る工夫がある。月1回ミーティング時に、入居 者一人ひとりについて理念に基づいたケアの内容 について協議がなされ、理念の実践に向けた具 体的な取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	小学生や近隣の方とあいさつを交わしたり、果 物や花を貰ったり、地域行事や夏祭りに参加し たり、地域の人々の交流への取り組みがある。 また、認知症への理解のための冊子を配布す るなどの専門性を発揮した取り組みもある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	外部評価の結果を踏まえ、毎月のスタッフ会議 で、スタッフ全員で今の状況を改善していくこ とについて協議するなどの取り組みがある。この なかで外出支援や地域交流について積極的に働 きかけるなどの成果がみられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族や民生委員、地域包括支援センターの出席のもと、運営推進会議の定期的な開催がある。会議では、外部評価の結果報告や改善策、活動報告、入居者の状態報告がなされるなどの取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加いただき、会議の席で相談や意見をお聞きすると共に、市町村担当者に相談、助言を受けたりしている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時に地域権利擁護事業や成年後見制度について資料を配布し、説明している。職員への研修参加やミーティング時の研修報告会など積極的な理解への取組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に状況説明をしたり、毎月発行しているホームたよりを利用して入居者の状況、ホームからのお知らせを行うなどの働きかけがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時の声かけや運営推進開催時を利用した意見聴取などが行われ、意見や要望に関してはその都度家族と話し合うなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のストレス軽減のために管理者がフォローするなど職員の離職を防ぐ工夫と担当制を実施する中で定期的に担当替えを行い、離職者が生じても他の職員によるフォローを行い、入居者へのダメージが生じないように工夫している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して年齢や性別などによる制限は何らおこなわれていない。外部研修や法人内での研修、資格取得への研修に対しては、勤務ローテーションの調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回のミーティング時や常日頃の話の中で、入居者の人権を尊重し、言葉遣いや接し方などへの配慮すべきことを職員へ話している。人権問題を取り上げての研修や勉強会などへの取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の事業所での勉強会への取り組みやグループホーム協議会の研修会や系列病院での年間研修への派遣、その他研修案内の掲示など、研修参加への機会の確保と研修の参加実績がある。外部研修に関しては、報告会による全職員への周知の体制がある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修や交流会、他ホームとの入居者を交えての合同レクや交流会などを行い、情報交換やサービスの質の向上に向けた取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに来ていただき、見学や体験入居を通じて入居者や職員と馴染みの関係を作ってから、入居してもらうなどの取組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	らっきょう漬けや料理の下ごしらえ、洗濯物をたたんだりなど日常のかかわりの中で自然と学び、共に支えあう関係づくりや入居者の昔話などの会話を通じて職員自ら学ぶ関係を築く取組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日々のかかわりの中を通じて、入居者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、家族の面会時や運営推進会議などを通じ、家族の意向などの把握に努めている。また、介護記録には、入居者の発言に着目して記録し、入居者の思いを探る取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	管理者、職員を交えた担当者会議にて協議検討し、入居者それぞれに応じた介護計画を作成している。また、介護記録は、入居者の発言に着目したものとなっている。		入居者、家族への担当者会議への参加の働きかけに努め、入居者本位の視点に立った介護計画となるよう心がけてほしい。また、入居者の発言等に注目した介護記録から入居者の基本情報やアセスメント記録として整備し、共有化のために活用してほしい。




外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のミーティングにおける全職員参加による 協議検討を行い、必要に応じて介護計画を再作成 している。ただし、計画内容の達成度を評価する モニタリングは、書面として整備されておらず、 定期的な計画見直しの間隔も比較的開いているこ とが多い状況である。		介護記録や月に1回のミーティングでの話し 合いの内容をモニタリング表として整備し、状 態の変化がなくても見直しを確実にを行い、入居 者の現状の把握と現状に即した定期的な介護計 画の作成や見直しに取り組んでほしい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	入居者のかかりつけ医との連携やホームの協力 医との連携による入院の回避やかかりつけ医への 通院介助などの支援がある。		認知症への理解を深めるための冊子の配布な どの取り組みからさらに地域の抱えるニーズに 柔軟に対応する取り組みを検討してほしい。ま ずは、ホーム行事や地域行事を利用した相談会 の実施などを次への取りかかりとして検討して ほしい。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	入居前からのかかりつけ医を優先し対応してい る。ホームとしての協力医もあり、24時間いつ でも対応可能である。また、入居者の以前からのか かりつけ医への受診について家族対応が困難な場 合は、ホームにて支援するなどの取組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	特に重度化された場合のホームとしての対応に ついての説明、同意が得られている。終末期の状 態に対する対応方法などを主治医、家族、管理 者、職員を交えて協議が行われているが、文章化 して職員間や家族との間での共有化についてはこ れからの課題である。		できるだけ早い段階での家族への働きかけを 行い、今後予想される状況変化に応じた繰返し の話し合いと、入居者の状況段階に応じた合意 を得て本人・家族の希望に沿った支援体制づく りに取り組んでほしい

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者の視線に合わせた声かけや馴染みのある 声かけ、入居者へ丁寧に謝意を表すなど入居者 の方が、和やかな雰囲気でも過ごせるように 対応が見受けられた。入居者一人ひとりを 尊重した言葉かけなど、プライバシーへの 配慮した工夫については、これからの課題 である。		家庭的な雰囲気と入居者一人ひとりの プライバシーを守ることへの配慮の バランスについて、常にミーティ ングなどを通じて日々のかかわり 方を職員間で確認し、入居者の プライバシーを損ねない対応を 意識する取り組みをしてほしい。
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先する のではなく、一人ひとりのペース を大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって 支援している	入居者の意欲を尊重した必要 最小限での支援が見られ、 日々の過ごし方、食事のペース、 食後の過ごし方、排泄への 対応など、あらゆる面において その日その時の入居者のペース を尊重した対応が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる 支援 食事が楽しみなものになる よう、一人ひとりの好みや力 を活かしながら、利用者と 職員と一緒に準備や食事、 片付けをしている	職員と入居者は一緒に食事を 取り、和やかに食事ができる 雰囲気であった。メニューは、 入居者と相談しながら作成し、 入居者にお茶のつぎ分け、 台拭きや下善、後片付けなど 自然に役割分担ができており、 職員は役割を尊重した上での 対応が見られた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる 支援 曜日や時間帯を職員の都合で 決めてしまわずに、一人ひとり の希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援 している	入居者の今までの生活リズム を重視し、夏場は毎日の入浴が 可能であり、午後からの入浴 実施とし、入居者の希望する 日や時間などに沿った支援が ある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	食材加工、雑布縫い、配膳、下膳、食後の後片 付けなど入居者のできることや得意なことを把握 したうえでの支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常の散歩や買物、入居者の希望によるその都 度の外出やドライブ、キャンプ地でのパーベ キューなど戸外に出かける機会を見つけて対応す る支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	ホームの5個所の出入り口は、常に日中開放さ れており、自由に出入りできる。職員は入居者の 様子を細かく観察・見守りを行い、さりげなく声 をかけたりに一緒に出かける等の入居者の自由な暮 らしを支える支援と安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回の消防署の指導による避難訓練の実施 とホーム独自の避難訓練が年に数回実施されてい る。近隣の施設との相互の協力体制や隣接する系 列病院の看護師寮との連携が図られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎食の食事摂取量を把握し、法人内の栄養士に 1ヶ月分の食事メニューのカロリーや栄養バラン スを確認してもらっている。水分摂取への声かけ は行われている。		入居者の状況に応じ、必要な入居者には水分 摂取のチェック表等で1日の水分摂取量の把握 を行い、水分確保の支援に努めてほしい。



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に古い時代の街並みの写真や手作 りの絵が掛けられ、季節の野の花が飾られるな ど、心安らく居心地よい空間づくりへの工夫があ る。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	入居者個々の居室には、仏壇や写真、テレビな ど入居者にとって馴染みの物が持ち込まれてお り、入居者にとって安心して居心地良く過ごせる 居室づくりへの工夫や配慮が見られた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号